

# ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 〒104-0033 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル Tel.(03)3551-6218  
ロシア東欧経済研究所 <http://www.rotobo.or.jp> [年間購読料・送料共前納 18,000円]

2001年(平成13年)11月25日 No.1211

## 目次

再編の気運高まるロシアの自動車産業(上).....坂口泉	1
PR◆極東で使える国際携帯電話のレンタルサービス.....	9

## 再編の気運高まるロシアの自動車産業(上)

はじめに 最近、ロシアの自動車産業では、ロシア資本の大手アルミニウム・メーカーや鉄鋼メーカーが、有力乗用車メーカーやバス・メーカーを買収するなど、資本関係の変化が著しい。また、フォードやGMを中心に外資の動きも活発化している。さらに、2001年に入り、外国製の新車の売行きが急激に回復してきている。

本稿では、これらの注目すべき動きの詳細と、その背後にある事情を紹介すると同時に、ロシアの自動車産業の今後について考察してみたい。まず今回は乗用車部門を取り上げ、次回は商用車部門の動向を紹介することにする。

### 1.乗用車部門

#### (1)乗用車の生産状況

ロシアの主要な乗用車メーカー別の生産量の推移は第1表のとおりである。1998年8月の経済危機以降、生産が伸びている。これは、経済危機の際、ルーブルの対ドル・レートが大幅に下落したにもかかわらず、各国内メーカーがルーブル建ての価格の値上げを極力控えるという戦略をとったため、ドル・ベースでの価格が大幅に値下がりし、消費者の間に割安感が広がったためだと推測される。この傾向は今も続いており、2001年に入ってから、一部の例外を除き(GAZ等)、各社とも生産量自体は好調なようである。

ただ、今後、生産量がさらに大幅に伸びる可能性は低いと筆者は考える。第一の論拠としては、財務面の問題をあげることができる。すなわち、各社ともかなり無理をして低価格を維持しているため、増産はしているものの財務状況が改善されない、あるいは、むしろ悪化するといった傾向がみえはじめているのである。常識的に考えて、このよう